

人生の転機と  
呼べるものが  
訪れたのは

空木が白い薔薇を  
ひとつふたつと  
付け始めた

十八の春のこと  
だった

今…なんて？

晶  
だからね  
……

お前は男と  
セツクスしないと  
死ぬ病に罹つてゐるんだ

物心ついた  
頃から













怜央にい…

え、

……あきら?





晶!?

体が  
燃えるように  
熱くて

そして

怜央にいの  
声が遠い

どこか懐かしい  
花の香りを  
嗅いだ気がした





早く処置しないと  
命に係わるからね









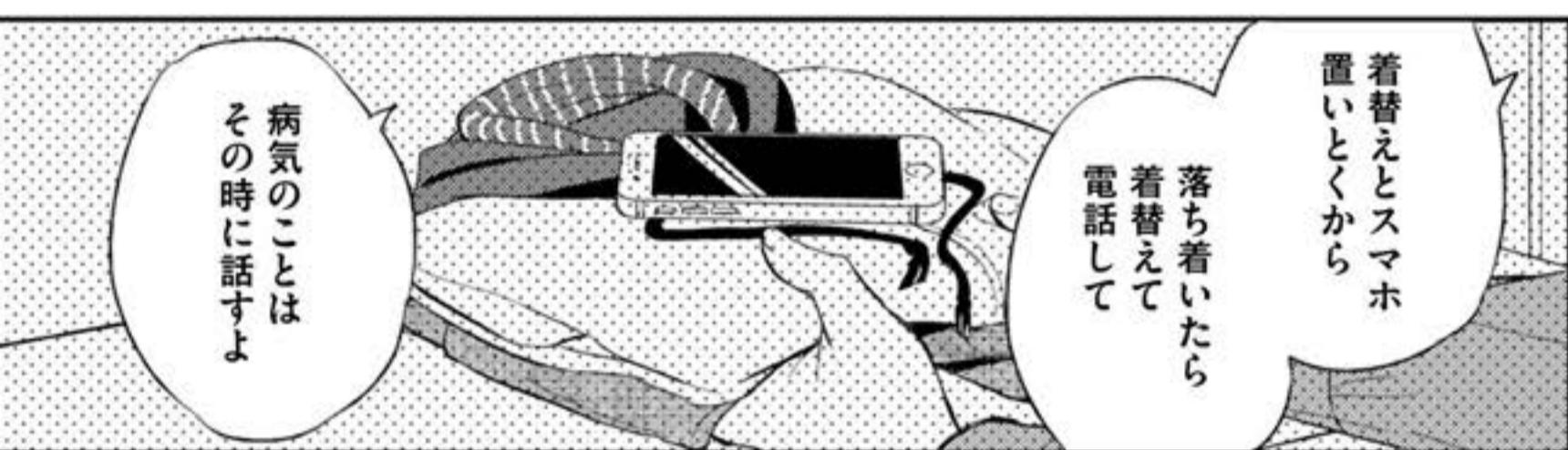
俺  
…

なん  
で…











俺は  
だつて

ずっと  
怜央にいのことが  
好きだったんだから

なんでこんなことに  
なってるんだよ…

弟  
みた  
いな  
存  
在  
で  
い  
い

そばにいれるなうと  
想いを隠して  
きたのに

男とセ○クス  
しないと死ぬつて

晶…

そんな  
馬鹿みたいな  
病気が理由で

怜央にいに  
抱かれたつて

ほんと意味  
わかんない…

全然  
笑えないって…